



王一だより

令和3年12月号
北区立王子第一小学校
校長 荒木 康子

教育目標 **な**仲良く助け合う子 **か**身体をきたえ元気な子 **よ**よく考え最後までやりぬく子 **し**親切で礼儀正しい子

「誰か」のことじゃない

校長 荒木 康子

12月4日から10日までの7日間は、人権週間です。法務省の今年度の人権週間ポスターには、～「誰か」のことじゃない～というメッセージが示されています。

コロナ禍においては、感染症そのものに加え、様々な不安、そして差別が課題となっていますが、私たち一人一人が**自分事**としていかに向き合うかを問われている一文であると感じます。

王子第一小学校では、「誰もが」「安心して」「豊かに」生活できる学校となるよう日々の教育活動を進めています。その基盤は、良好な人間関係だと考えます。

感染症拡大防止のため、学校の職員以外の方々とのふれあう機会がありませんでした。9月から学童クラブとわくわく王一ひろば（放課後子ども教室）が開設され、職員や関係機関の方々との新たなかかわりを築き始めています。同時に、王一小の子供たちのよさを認め、引き出させてくださっています。

先日、週に一度来校し、多様な面からご支援いただくわくわくひろばのコーディネーターからうれしいお言葉をいただきました。数校担当されているそうですが、王一小の子供たちとのふれあいで感じられていることを訪問する度に褒めてくださっています。

「高学年の児童が、低学年の児童とよく遊んでいる」「王一小は、低学年や中学年だけでなく、高学年の子供たちが自然にあいさつをしてくれます。」「話しかけると丁寧な話し方で返してくれます。」「本当に親しみやすい子供たちですね。」どのお褒めも、これまで学校として大切に育ててきた**「なかよし」**（教育目標）の**「明るく仲良しな子、親切で礼儀正しい子」**につながります。高学年児童は、在校生からあこがれをもてる「なかよし」のリーダーに育っています。あこがれを抱くには、日々の生活で見て学び、ともに活動したり、遊んだりする中で手本となり、次第にあこがれを抱く人間関係がつけられていなければなりません。

江戸時代には、「子をとろ子とろ」という外遊びが流行したそうです。ルールは「親」を先頭に何人かの「子」がつながって一列になります。「鬼」は最後尾の「子」を捕まえたらクリアとなり捕まった「子」が次に「鬼」になります。先頭の「親」は「子」が「鬼」に捕まらないよううまくガードしながら逃げなければならず、異年齢の子供たちで遊ぶグループの年長者が「親」を務めることが多かったそうです。子供たちはこの遊びを通して「年長者が年下の子を守る」という意識を学んで、明治時代には道徳の授業にも取り上げられることがあったそうです。

「遊びながら学ぶ」習慣は、昔からあったことが分かります。本校では、登校班に加え、たてわり班活動も再スタートし、できる範囲での交流を考えながら、子供たちの心身の成長を支えていきたいと考えています。「誰か」のことを**自分事**として思い、実行できる子を育てていきます。

＜児童アンケート調査の実施について＞

体罰や暴力のない楽しい学校生活づくりを目指し、児童に「暴力はいけないこと」について指導を行い、楽しく学校生活を送ることができるようにするために、児童にアンケート調査を行います。各家庭においても、お子様の声に耳を傾け、学校生活における出来事などについて話し合う機会をもつなど、人を大切にすることや暴力はいけないということについてご確認の上、何かお子様について心配なことがあれば、いつでも、どんなことでも学校にご相談くださるよう改めてお願いいたします。（全東京都公立学校で実施）